



「ご案内」

お知らせ！

■設立20年記念企画

平成15年10月に迎えた設立20年を記念し、普及図書「印旛の原始・古代―旧石器時代編―」の刊行と「絵はがき」の作成を行いました。

「印旛の原始・古代―旧石器時代編―」は今までなじみの薄い旧石器時代に焦点をあて、印旛郡内で蓄積された資料を、最新の研究成果を取り入れながら、写真や図面を多く用いてわかりやすく解説した概説・資料集です。「絵はがき」は過去20年間において当センターが発掘した貴重な出土遺物をプロ写真家の手により、皆様により親しみを持っていただけるようにまとめ上げました。

普及図書は1冊1,500円にて頒布、絵はがきは無料にて配布しております。ご希望の方は本部までお問い合わせください。



■文化庁主催「発掘された日本列島2004」

当センターで発掘調査した井野長割遺跡の出土土器・土製品などが下記の会場・日程にて展示されています。

江戸東京博物館 (東京都墨田区)	H16. 6. 1～H16. 7. 7
群馬県立歴史博物館 (群馬県高崎市)	H16. 7.13～H16. 8.15
花巻市博物館 (岩手県花巻市)	H16. 8.21～H16. 9.19
石川県立歴史博物館 (石川県金沢市)	H16. 9.25～H16.10.24
奈良市美術館 (奈良県奈良市)	H16.10.30～H16.11.28
高知県立歴史民俗資料館 (高知県南国市)	H16.12. 4～H17. 1.10
神戸市立博物館 (兵庫県神戸市)	H17. 1.16～H17. 2.20

■第8回遺跡発表会の開催

7月24日(土)午後1時(受付12時30分)から、佐倉市中央公民館大ホールにて、第8回遺跡発表会を開催します。特別講演：国立歴史民俗博物館 小野正敏助教授 「城館の発掘が語る中世の印旛と東国」

調査成果報告：
佐倉市井野城跡 (中世)
佐倉市内田端山越遺跡 (奈良・平安時代)
佐倉市太田長作遺跡 (第2次) (縄文～古墳時代)

併せて、当センターの考古資料展示室においては今回の発表遺跡の出土遺物を展示する「最新出土考古資料展」を7月12日(月)から行います。どちらも無料ですので、ぜひご来場ください。

＜成田市＞

東和泉栗山台遺跡 (旧石器、縄文、奈良・平安時代)
南園護台遺跡 (第4地点) (奈良・平安時代)

＜佐倉市＞

吉見稲荷山遺跡 (縄文時代)
白井屋敷跡遺跡 (第6次) (弥生時代、中世)
城次郎丸遺跡 (第6次) (弥生、奈良・平安時代)

＜印西市＞

東畑遺跡 (縄文時代、中・近世)

＜四街道市＞

前原No.2遺跡 (旧石器、奈良・平安時代)

「発掘中の遺跡」
6月～9月

がんばっています！

＜本部＞

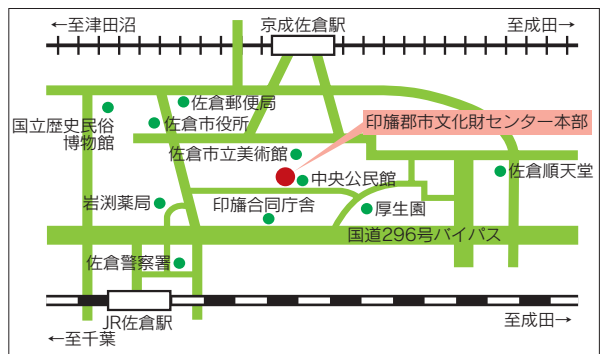
佐倉市錦木町198-3 TEL. 043-484-0133
台方下平Ⅰ・Ⅱ遺跡 (成田市 旧石器～平安時代)
西和泉和田遺跡 (成田市 奈良・平安時代、中・近世)
西和泉栗山遺跡 (成田市 奈良・平安時代、中・近世)
東和泉栗山台遺跡 (成田市 旧石器、縄文、奈良・平安)
江原台遺跡 (佐倉市 縄文～奈良・平安時代)
太田長作遺跡 (第2次) (佐倉市 旧石器～奈良・平安)
井野城跡 (佐倉市 奈良・平安時代、中世)
笹目沢Ⅰ・Ⅱ遺跡 (四街道市 縄文時代～中世)
木戸場遺跡 (四街道市 旧石器、縄文時代、中・近世)

＜佐倉南統合調査室＞

佐倉市岩富町528-1 TEL.043-498-0765
内田端山越遺跡 (佐倉市 奈良・平安時代)
飯塚荒地台遺跡 (佐倉市 古墳時代)
井野長割遺跡 (佐倉市 縄文時代)

「お知らせ」

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを！



こつちもやっています！

「室内作業」

発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 TEL.043(484)0126(代) FAX.043(485)9871 http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp/i/

FIELD BOOK



財団法人 印旛郡市文化財センター



3号墳 出土遺物

大蛇中芝遺跡全景

おおじやなかしばいせき
大蛇中芝遺跡は佐倉市大蛇町字中芝に所在し、印旛沼にそそぐ鹿島川の支流である高崎川北岸の台地上に位置しています。調査は市営住宅の建設に伴い、平成14年度と平成15年度の2回行いました。

調査では縄文時代早期の炉穴11基、古墳時代後期の円墳3基、奈良・平安時代の方形周溝状遺構4基、中・近世の掘立柱建物12棟、溝30条などが検出され、旧石器や縄文土器、古墳時代の須恵器・土師器、中・近世の陶磁器・銭貨・鉄製品・石製品・鉄滓や炉壁などの生産関連遺物が出土しました。

円墳は3基ともすでに墳丘が削平され、主体部は残っていませんでしたが、周溝の中から埋葬施設が1基検出されました。残念ながら、遺物は出土しませんでした。他の古墳の周溝から5世紀末～6世紀前半頃の土師器の坏・高坏・甕が出土しましたので、古墳群の築造時期はおおむねこの時期であると考えられます。奈良・平安時代にも方形周溝状遺構と呼ばれる埋葬施設が営まれていることから、当遺跡が長い間墓域として意識されていたことがうかがえます。

その後、長い空白の時期を経て、16世紀前半～17世紀(戦国時代から江戸時代前半)に集落が形成されるようになります。これには、千葉氏が15世紀末に本拠地を当遺跡から北東1.5kmに位置する本佐倉城に移したと深く関係していると思われます。

この時期の溝から古墳時代後期の遺物が出土していることや、掘立柱建物と古墳が重なっていることから、集落の造成によって、古墳の墳丘が削平されてしまったと考えられます。また、こうした状況から、墳丘が削平されてしまった古墳が他にも存在するかもしれません。

このように、今回の発掘調査の成果によって、この地域の歴史の移り変わりがより鮮明になると共に、周辺に眠る遺跡の存在が想定されることとなったのです。

しか わたし い せき

鹿渡遺跡(第3次)



鹿渡遺跡は、四街道市の南西部、JR四街道駅から距離にして南へ約1kmいった旭ヶ丘第2グリーンタウン内の一角に位置し、南側には鹿島川の支流である小名木川が流れています。本遺跡は北総考古学研究会によって1981年(第1次)と1982年(第2次)に学術調査が行われ、第1次調査では縄文時代早期前半の撚糸文系土器、押型文土器、貝殻条痕文系土器が多数出土し、第2次調査では撚糸文系土器、押型文土器が共伴して出土した竪穴住居跡が検出され、古くから遺跡の存在は注目されていました。

今回の第3次調査は宅地造成に伴って行わ

れ、調査の成果としては旧石器時代では石器製作跡が2ヶ所検出され、縄文時代では炉穴(ファイヤーピット)や陥穴の他に柱穴のみ確認された住居跡が新たに1軒見つかリ、第2次調査で検出した竪穴住居跡も今回の発掘調査で再調査されました。再調査した竪穴住居跡の大きさは長軸5m、短軸4.3mで、柱穴は壁際に沿って多数認められました。包含層から出土した縄文土器は早期前半の撚糸文系土器、貝殻条痕文系土器の他、前期前半の関山式土器などが見られました。中でも早期前半の押型文土器と呼ばれる土器は、棒状の施文具に刻みを入れ、それ

を回転させて器面に文様を施文するもので、中部地方や東北、西日本が中心地であり、千葉県早期の遺跡では貴重な資料です。また、奈良・平安時代では周囲に四角い溝を巡らせた方形周溝状遺構と呼ばれるお墓も1基検出されましたが、死者を埋葬するための施設(主体部)は見つかりませんでした。

鹿渡遺跡周辺はここ数年、急激な宅地化が進みそれに伴って調査例も増えていることから、今後の調査成果に期待したいところです。



遺跡全景(西から)



方形周溝状遺構



旧石器時代ブロック検出状況



- 縄文時代住居跡
- 縄文時代土坑
- 奈良・平安時代方形周溝状遺構
- 確認トレンチ
- 下層確認トレンチ



縄文時代早期住居跡



押型文土器